
VDI(Virtual Desktop Infrastructure)

2013月4月

株式会社アイ・シー・アイ



今までの企業システムでは、従業員1人1人にクライアントPCを1台ずつ配備するのが一般的でした(もっと昔は1-2台のPCを皆で共有して使っていました)。

しかし、従業員の増減に伴うOSやアプリケーションのインストール、PC管理、パッチやセキュリティ定義ファイルを各クライアントPCへ展開する作業等に多くの手間とコストが発生しています。



また、2013年1月時点で世界のOSシェアで39.51%^{※1}を占める“Windows XP^{※2}”のサポートが2014年4月8日(米国時間)に終了することもあり、2010年頃からVDI導入に注目が集まっています。

※1 米国調査会社 Net Applications社 調べ

※2 Windows XP Service Pack 3 (SP3)、Windows XP 64 ビット版 SP2 及びMicrosoft Office 2003 Service Pack 3 (SP3)

VDI(Virtual Desktop Infrastructure)とは

VDI(Virtual Desktop Infrastructure)とは
企業などでデスクトップ環境を仮想化してサーバ上に集約したもの。利用者はクライアント機からネットワークを通じてサーバ上の仮想マシンに接続し、デスクトップ画面を呼び出して操作する。(出典：e-word.jp)

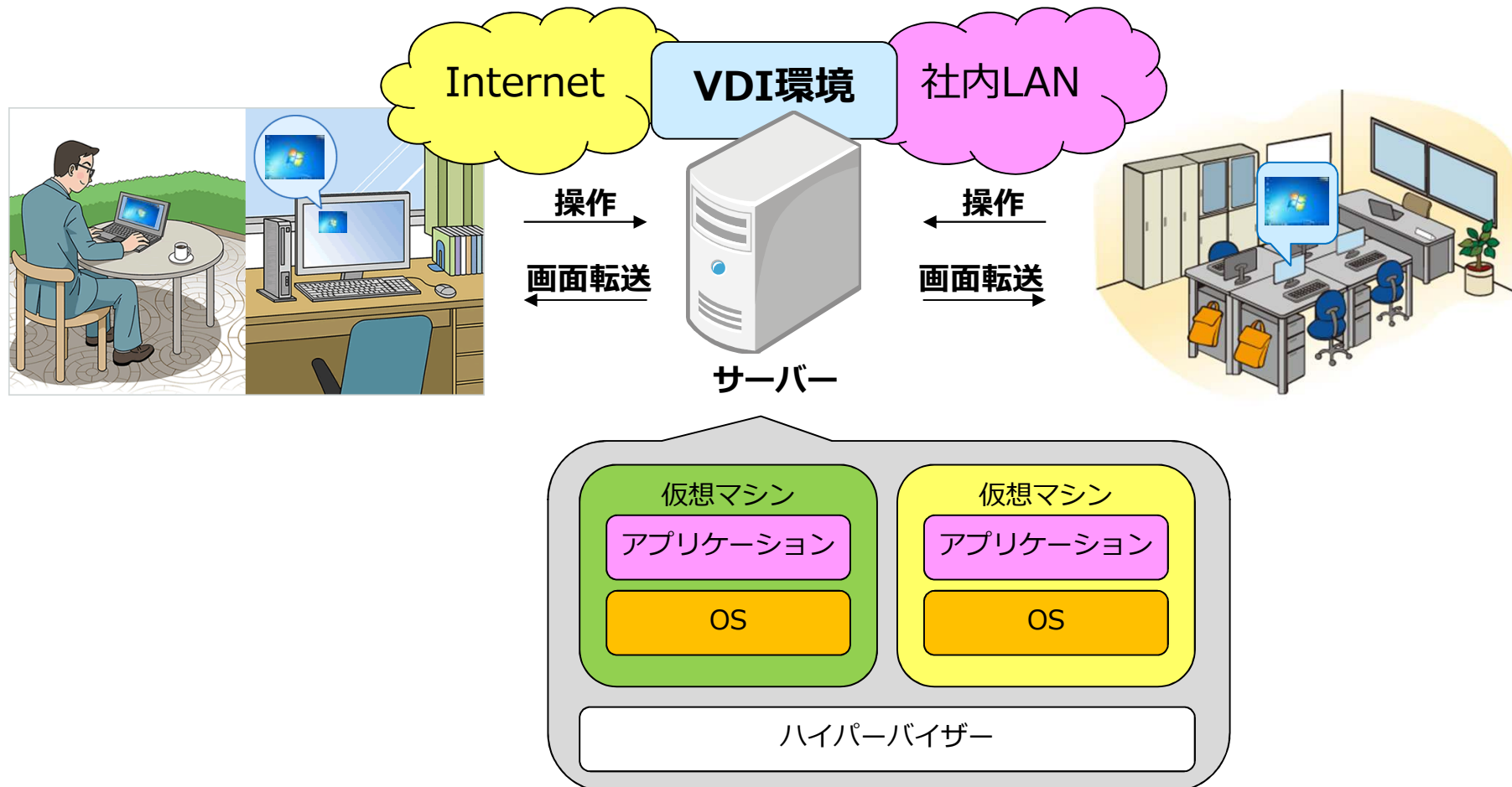
➡ つまり、どーいうこと？

インターネットに接続できれば、どこからでも自分の職場PCのデスクトップを表示できる様になるということ。
パソコンを持ち歩くのではなく、デスクトップ画面をインターネットを使って、その時使っている端末(Windows/Mac PC、タブレット等)に持ってくる仕組みです。



VDIの仕組み

複数のクライアントをサーバー上の仮想環境で稼働させ、そのユーザーインターフェイス(画面)をユーザーの持っている端末に転送します。
VDI環境には、ユーザー毎にOS、アプリケーション、ファイルの全てが存在しており、アプリケーションの実行も仮想マシン上で行われます。



➤ メリット

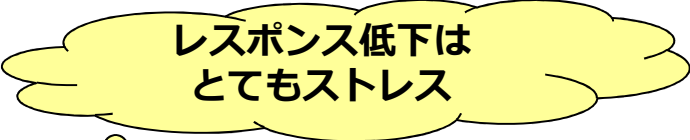
ユーザーへのメリット

- **どこからでも**(会社の自席や会議室、外出先、自宅等)、**どんな端末からも**(Windows/Mac PC、タブレット、スマートフォン等)職場と同じデスクトップ環境を利用できる
- **データが操作端末には残らない**ため、セキュリティが保たれる(情報漏えいリスク低減)
- クライアント端末は**省スペース**となるため、会社の机が広く使える
- 作成中の資料等も閲覧することができ、打ち合わせ用に資料をプリントアウトする回数も削減できる

IT部門へのメリット

- デスクトップ環境の**メンテナンス(パッチ適用、アプリインストール)**が**簡単**になる
- ユーザーデータもVDI環境側に格納されるため、セキュリティが保たれる(情報漏えいリスク低減)
- IT部門側で仮想環境を管理するため、ユーザー側の**OSイメージ、アプリケーションを統一**しやすい
- オフィス環境の省スペース化、部署移動時のPC移動が不要

➤ デメリット



レスポンス低下は
とてもストレス

ユーザーへのデメリット

- ・ 会社での利用時も、サーバーにアクセスするため、アクセスが集中する時間帯(出社時等)に(ファイル操作等の)レスポンスが低下する可能性がある

IT部門へのデメリット

- ・ ハードウェア資源(プロセッサ性能、ネットワーク帯域、ストレージ容量)の増強を、ユーザー数を見ながら随時実施する必要がある
- ・ サーバーはクライアントPCより高価なため、サーバー増強等の発生によりコストが逆転する(VDI導入の方が高価となる)可能性がある

今までは、大企業向けのVDIソリューションが中心でしたが、最近では中小企業向けのソリューションも登場してきています。

また、VDIをクラウド環境に構築してインフラの管理をIT部門からプロバイダに任せてしまう(DaaS : Desktop as a Service)も注目されてきています。

VDIの普及により、働き方の多様化(BYOD、在宅勤務、災害時対策)が加速していきそうです。

